平成28年度　大阪府立岬高等学校　第１回学校協議会　議事録

平成28年５月24日（火）午後３時～

於　岬高等学校　校長室

出席者　【委員】見先　梅川　松本　西本　清井　大浦　（敬称略）

　　　　【岬高校】校長　教頭（２名）　事務長　首席

　　　　　　　　　教務主任　進路指導主事　生徒指導主事（代理）　国際交流委員長

特別支援コーディネーター　各学年主任　初任者（２名．４名は初任者研修のため欠席）

１．【学校長挨拶】（要旨）

　・各学年の様子、これからの行事予定の説明。

　・本校の教育発展のため、引き続き委員の皆様へご協力のお願い。

　①校長より、今年度の学校協議会委員の皆さんの紹介。

　②教頭より、学校協議会の実施要項の説明。

　③学校協議会会長に見先氏を、会長代理に西本氏を選出。

２．【報告事項】

　①エンパワメントスクール進捗状況

　〇校長より

　　新年度がスタートしてから、１ヶ月半が経ちました。４月には熊本県において大きな地震が発生しました。災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さんが一日も早く元の生活に戻れるよう願っております。

　　４月28日には、校外学習が行われました。１年生は堺市のハーベストの丘に、２年生は神戸方面の北野異人館周辺、南京町海沿いエリアに、３年生は京都の東山方面に行き、仲間づくりをしていただいていたことと思います。

　　この４月から岬高校は、エンパワメントスクールとして新たなスタートをきりました。１年生のみなさんはエンパワメントスクール１期生です。長い階段に「もうムリ」と言いながらも毎日頑張って登校しています。

　　１年生のみなさんの学校生活として、３つの特徴をご紹介します。

１つめは始まりの時間が早くなっています。１年生のみなさんは、２・３年生とは異なり、学習活動が８時30分に始まります。まず、10分間のウェイク・アップタイムで、１日の予定を確認するなど、学習する姿勢をしっかりと準備します。その後、５分間の休憩を経て、２・３年生の１限目と同じ８時45分から一つ目の授業が始まります。

　　２つめは、ここも２・３年生と違うところで、２クラス３展開し、毎日30分、少人数の講座で国語、数学、英語の基礎基本を確認します。エンパワメントスクールの最大の特徴の一つです。国語、数学、英語の基礎基本を高校生の立場で確認していきます。30分間ですが、一日のうちでも集中力の高い午前中に毎日取り組むことにより、学習内容がしっかりと身についていきます。この３つの授業が終わると、２・３年生と同じ50分授業が４つあります。

　　３つめは、エンパワメントタイムで考える習慣をつけていきます。「考える時間」や「産業社会と人間」において、答えが一つではない課題に対して自分なりに考えてみたり、自分のことを改めて見つめ直したりします。また、その活動を通して様々な意見や主張があることに気づくとともに、協力して問題を解決していく力を養います。生徒主体となる内容の授業です。

そんな１年生ですが、遅刻や欠席が減少し、朝の挨拶、授業中の態度、敬語が使えるなど、前向きな生徒が増えたように感じます。また、新入部員を迎え、部活動も活発に行われています。学校生活を楽しむための一つのツールが部活動です。すでに多くのクラブでフレッシュな新入生の姿を見ることができます。特に、軽音楽、バスケットの人数が多く、野球部も単独チームでの出場をめざしています。

　②各学年の指導目標

　〇第１学年主任より

　　具体的に４つの目標があります。１つめは朝のウェイク・アップタイムで、基本的生活習慣を身につけさせます。２つめは基礎学力・進路意識の向上を図ります。３つめは職員室の入室時や公的な場で、礼儀・挨拶を場面に応じて適切にできるようにさせます。４つめは立ち番指導で見守り、すべての生徒が安心して高校生活を送れる環境を維持するために、徹底した指導を行います。

　　以上の目標を達成するために、各家庭や各教科・分掌等と連携して、連絡・相談を重ねながら、学年団全員で生徒に対し、一貫した指導を粘り強く続けていきます。今年度からは岬高校はエンパワメントスクールへ改編となりました。「エンパワー」という言葉には「力を引き出す」という意味があり、岬高校普通科のときとは異なり、生徒にとっては各授業の選択の幅が広がりました。また、「正解が一つでない」課題について取り組む授業も行っています。授業の中で生徒の持つ思考力、判断力、表現力を「引き出す」取り組みをしている段階です。エンパワメントスクール１期生ということで、新しい学年として新たな歴史を作っていく後輩たちへ、いい伝統を繋いでいける学年にしたいと考えています。

　〇第２学年主任より

　　「授業第一、人に優しく　自分に厳しく」を学年目標にしています。具体的な内容は４つあります。１つめは授業をしっかりと受ける。２つめは人の嫌がることをしない、言わない。３つめは時間・約束・きまりを守る。４つめは自分の言動に責任を持つ。これ以外にもきめ細かくやっております。このようなことを常に意識できる生徒を育て、目の前の課題と向き合い、日々、自分が成長できるよう、学年全体で声をかけていきます。

　　37期生は昨年度「やってみなはれ」という言葉を生徒と教員間で共有し、何事にも挑戦しようと試みました。今年度は「やってみなはれ、一歩先へ、もっと先へ」という言葉を共有し、少しでも昨年度より成長することを期待し、進路を決める最終学年に向けて準備をしてもらいたいと考えています。

　〇第３学年主任より

　　学年の目標は「自分の力で　～余裕を持って　自信を持って～」です。自らの力を高め、人に甘えたり頼ったりすることなく、１年後に社会の一員として活躍できる大人へと成長できるよう後押しをしていきます。

３年生はクラスによってコースが違うので、生徒の様子を見て、学級目標を担任が考えています。生徒指導方針は、卒業後を見据え、「人の話をしっかり聞かせる」「丁寧な言葉遣いをさせる」ことを目標に指導していきます。また、「期限を守らせる」「正しい頭髪・服装を意識させる」ことを日々の声かけをすることで徹底していきます。最後に、高校生活の集大成としての「全員卒業」「進路決定」をめざして、学年団一丸となり生徒に接し、以上の目標を達成できるように全力で取り組んでいきます。

　③各部事業報告

　○教務部より

・平成27年度在籍異動について

３月に転退学者が多いのは何とか１年間粘り強く指導はしていますが、成績が足りなかったり、出席日数が

少なかったりが理由で、原級留置となる生徒がいるためです。

　　・入学者選抜について

　　　今年度からは特別入学者選抜となり、昨年度までとは大きく変化しました。Step１では、学力検査一定以上

　　　の者から、自己申告書・調査書所見・面接により、Step２では学力検査５教科、調査書評定により合格者が

決定しました。前期入試になり、入試の制度的にも有利になり、志願者倍率は1.3倍となりました。また、昨年度までは280人募集でしたが、今年度は210人となっています。試験当日はインフルエンザの流行期にあたり、別室等の対応をしました。初めての入試でしたが、ミス無く終えることができました。

　　・平成28年度計画について

　　　エンパワメントスクール２年次の科目選択や時間割編成などがあります。また、１・２学期末の補習（総合学科）や追認指導（普通科）を実施し、年度末における欠点者の減少をめざしていきます。

　○進路指導部より

　　・35期生の進路状況について

４年制大学への進学が増え、進学率は32.4％、就職率は59.6％、未決定が８％となっています。

　　・進学について

指定校推薦、AO入試での合格がほとんどです。公募推薦、一般推薦は少ないです。

　　・就職について

昨年度に比べ、学校紹介就職の求人件数も増え、内定者数の職種別内訳としては、昨年度と比べ、サービス

と技能が多くなっています。

　　・今年度の取り組みについて

　　　例年行っていることに加え、１年生でジョブチャレンジ（インターンシップ）を行います。特に障害者手帳

　　　を持っている生徒は必ず行います。また、進学、就職をしてもすぐにやめてしまう生徒が少なくありません

ので、卒業後の追跡調査をし、どれぐらい定着してるのかを確認したいと考えています。

　　・今年度の進路希望調査結果について

３年生は210名の在籍があり、就職希望は119名で56.7％、進学希望は85名で40.5％です。残りの生徒に

ついてはまだ未定となっております。

　○生徒指導部より

　　・登下校及び休憩時間の立ち番指導について

　　　立ち番指導の主な目的は、①身だしなみ指導、②挨拶の励行、③遅刻指導です。例年と違うところは1年生

　　　の始業時間が８時30分ですので、立ちに行く時間も少し早くなっています。

・年５回の生活指導キャンペーンについて

普段の立ち番指導よりも多くの教員を各場所に配置し、その立ち場所も変えながら行っています。

　　・生徒指導に関する講演について

　　・進捗状況

　　　昨年から新たに問題行動の未然防止や階段を降りる際の安全確保のため、階段とスロープ付近に教員を配置

しました。その結果、敷地内での問題行動はほぼなくなるばかりか、ぎりぎりで登校してくる生徒の遅刻防

止にも効果的です。また、スロープでの自動車等との危険なすれ違いも回避できています。課題は、教員を

配置していない場所での問題行動への対処です。人員的にも限界があるため、対応策として今年度は1年通

じて同じ場所に配置するのではなく、定期的に配置場所を変えながら問題行動の防止に努めていきます。

同時に、始業式や終業式、各学年集会などにおいて、岬高校の生徒の行動がそのまま岬高校への評判となり、

それが自らの進路実現に繋がることを訴え、生徒全体の規範意識の向上に努めていきます。

　○国際交流委員会より

　　・平成27年度実績報告

　　　岬高校では平成25年度より、台湾の高校との相互交流を行っています。平成27年11月５日には、台湾基

　　　隆女子高級中学が来校し、生徒有志、PTAや後援会の方々など、双方合わせて約80名の活気ある交流会でし

た。初めての茶道体験を行い、また、軽音楽部のミニライブも楽しんでもらえました。

　　　平成27年12月13日～16日には本校生徒３名、PTA１名、教員３名で台湾基隆女子高級中学を訪問しました。

一度大阪で交流した相手ともう一度会える機会を得て、非常にうれしそうに交流していました。

　○特別支援検討委員会より

　　・学校における特別支援教育の位置づけについて

・校内委員会の設置の目的について

　　・本校の現状と設置理由について

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国調査」では、LD、ADHD、高機

能自閉症を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒は平成25年度は全体の6.5％でした。10年前は

6.3％でしたので、増加傾向にあります。現在、本校においても特別支援が必要と思われる生徒が在籍し、

校内での見守り、家庭との連携、外部の医療機関や福祉機関との連携などの支援を行っているところですが、

今後、支援が必要な生徒が入学し、増えることが予想されることから支援レベルの考察（支援対象とするか

否か、個別指導計画作成の是非、外部機関との連携・調整など）などにおいて、今までの担任及び学年対応

ではしきれないことが考えられる。そこで必要に応じて校内コーディネーターを中心に特別支援検討委員会

を持ち、特別支援が必要か否かを含め、適切で効果的な支援を行う体制づくりを図っていきます。

・特別支援検討委員会の役割について

　　・特別支援検討委員会の支援対象となる生徒について

　　・校内の特別支援体制について

３．【協議事項】（見先協議会長の司会進行）

　①平成28年度　学校経営計画及び学校評価（校長より説明）（要旨）

* + 昨年度の学校評価に基づき取組みを強化する点を中心に説明

・エンパワメントスクールについては、先ほどの進捗状況で述べたとおり。今後取組みを進めるとともにこまめに振り返りを行い、追加修正しながら充実を図る。学校教育自己診断や授業アンケートには、エンパワメントスクールに関連する質問項目を設け検証する。

・引き続き「わかる授業」に対して取り組む。授業展開、生徒意識１・２について意識する。

・あわせて、昨年度第３回目の会議で申し上げた課題である「教員が悩み事などを気軽に相談できる雰囲気作り」が必要。今年度、首席が授業について意見交換できる場を設けている。

・生徒の学校生活に対する肯定的な評価を高めるため、「わかる授業」づくりとあわせて、部活動や行事などにおける生徒の主体的な取組みを引き出す。学校生活において生徒が主体的に楽しめる場面を作り出す。

・また生徒指導は、ひいては社会で生きていくために必要なものであることを理解させたい。それもキャリア教育の一環であると考えている。特に１・２年生のときから将来の進路を見据えて、理解させることが必要。

・昨年度中止になった事業に「山海人プロジェクト」「国際交流ワークショップ」があるが、「山海人プロジェクト」については、１日のイベントで終わるのではなく、生徒会やその他の有志の参加も呼びかけ、日常的にかかわるものにしたいと考えている。本日休耕田にひまわりの種をまいた。今年度は年度の当初から委員会も活動してくれている。今後教育課程の中に位置づけることも含めた検討。

・インクルーシブ教育については、高校生活支援カードの活用により生徒の理解を深めるとともに、校内委員会やケース会議の開催により、教員間で共通認識を持って指導・支援に当たりたい。

・裏面には、具体的な指標を設けているので、ご覧おきいただきたい。

　（質疑応答）

　委　　員：選挙権年齢が18歳に引き下げられたが、その対策は。

　３年学年主任：文部科学省からも、それに対し授業を行うよう通達が来ているので、社会科で担当しています。今週、

　　　　　　模擬投票を行います。実際に、投票用紙を書き、投票箱に入れるまでの動きを行います。

　委　　員：もう７月に選挙がありますから。

　２年学年主任：２年生も模擬投票を行います。先生３人が出馬し、それぞれが政策を掲げています。

　委　　員：複数人を選ぶ時の対策もお願いします。

　委　　員：１年生の雰囲気が今までと違うようですが。

　教務主任：言葉遣い等が丁寧な子どもが増えたように思います。勉強が苦手だが頑張りたい、小中学校の学び直

　　　　　　しをしたい生徒が多く、授業が生徒のニーズにあっているようです。テストで点数をとらせて、勉強

　　　　　　をしてよかったと思わせたいです。

　委　　員：いい方向に向かっているのですね。

　委　　員：歩いて、淡輪駅に来る生徒が多いです。以前と異なり、タバコを吸っている生徒はいないものの、ゴ

ミを散らかしてしまう子が多い。

　委　　員：タバコが少ないのは立ち番をあてているからなのか。

　生徒指導部長代理：毎日、階段とスロープ等に立ち番はしています。

　校　　長：校内の喫煙の形跡は無いが、外に出て行っていないかが心配です。

　教　　頭：先生方は休み時間も取らず、限界ギリギリのところでやってくれています。

　委　　員：先生方はこれだけやってくれていると思うと、頭が下がることばかりです。生徒への指導は最後には自分に返ってくると思います。いい方向に向いていると思います。今の先生はやる事が増えているので体調等が心配です。

　委　　員：エンパワメントタイムでは、生徒相手に対話形式で授業を行っているようだが、それは今の生徒にあっていると思います。大学生も同様です。討論、これからは生徒が自分の頭で考え、伝えることが大切になってくると思うので、頑張ってほしい。

　委　　員：制服に関して、以前よりもきちっと着ている者が多い。以前はTシャツだけの者も多かったが。

　教　　頭：かなり良くなってきたという評価をいただいたと受け取ってよろしいでしょうか。

　委　　員：制服の着方１つとっても、良い子が増えたのがわかります。

　委　　員：エンパワメントスクールの国・数・英の科目の目標はありますか。検定を受けるとか。また、評価はテスト以外にありますか。

　１年学年主任：目標についてはPDCAの表を作り、次のテストは●点を目標にするといったことをさせています。

　英語担当：英語は２つのレベルにクラスを分けています。１つのクラスは英語を好きになってもらいたいです。もう１つのクラスは能力を伸ばしていきたいです。２年生以降に、希望者には英語検定を受けてもらうことも考えています。

　数学担当：数学も２つのレベルにクラスを分けています。プリントは標準クラスにあわせて作っていますが、応用クラスにはプラスの追加プリントをさせています。また、単元ごとの小テストも行っています。

　教務主任：評価に関しては、本校では授業態度、提出等の取組みを重視しています。

　委　　員：上のクラスに入れると喜ぶと思いますが、下のクラスになると残念がるのでは。例えば、小テストで満点をとると、ほめてあげると良いと思います。今年入学した子は目標を持って入っています。グループワークの内容は、例えばどんなことをしているのか。

　首　　席：新入生にとって、グループワークを急に行うことは難しいと思います。よって、聴くワーク、伝えるワーク等コミュニケーションを上手くとる方法を学ばせ、その後、２人、３人と段階をおって、グループの人数を増やしていっています。授業担当者は50分授業の内容を分単位で考えて、授業づくりをしています。多くの生徒は楽しそうに授業を受けてくれています。

　委　　員：先生方、本当に頑張っておられますね。今頑張っていれば、次の学校でも力が発揮できると思います。

　教　　頭：協議会の皆様、ありがとうございました。貴重なご意見をいただきまして、岬高校のさらなる発展に

つなげていきたいと思います。次回の開催は９月中旬を予定しております。それではこれで終了いた

します。